

中村哲医師アーカイブ

*「辺境で診る 辺境から見る」(石風社・二〇〇三年刊)より

ペシヤワールのホタル

中村哲

私の少年時代の夢は一山を所有して、虫たちと暮らすことだった。これはわがファミリーブル先生の影響である。その後いろんなことがあって夢は実現せず、虫の観察はどれもこれも中途半端に終わって、モノにならなかつた。虫は大好きだが、いまだド素人に近い。それでも興味だけは残っていて、

自然が身近にある限り退屈しない。

ペシヤワールでホタルを見たときの感激が忘れられない。ゲンジボタルの幼虫は清流に棲むから、あんな酷暑の沙漠にはいないと決めつけていた。赴任して五年後のある夏の夜、庭に出ていると、ハエのようなものが数匹、空中を漂うように舞っている。

表紙写真によせて

バラコットの大樹

用水路の取水口を臨むところに、一本の大樹が生えている。樹齢何年だろう。アフガンの強い日差しの中で柔らかな蔭を落とし、地元ではピクニックの穴場になっているようだ。人々はそこに敷物を広げ、お茶を飲み交わしながら、湧水が作り出すせせらぎに耳を傾ける。

学生の頃、「地上の木の姿をそのまま鏡像のように反転させたものが、土の中で根として張り巡らされている」と教えられた事がある。イメージの話なのか実際にそうなのかはよく分からないが、その教えに倣うとすれば「根っこを想像する事は、目の前の木をよく観察する事である」と言い表せるかもしれない。その木を如何に自分の中に描けるか。まずは幹から、それから枝葉を…とか、ちょっとした手法はあったとしても、最終的には部分だけでも全体だけでも成り立たない。結局のところ、どれだけ時間を掛けてその対象物と向き合い続けるかに他ならないのだ。

中村先生ならどれほどの根っこを見ただろうか。私達は今、見る事を怠ってはいないだろうか。

この樹が大地に根ざしてきた時間に、礼を尽くそう。この樹がこれから見守ってくれるだろう、新しい用水路が描いてゆく景色に、想いを馳せよう。

それが穏やかに点滅して光る。

ライトのせいだと思っただが、いかにもホタルらしく見えるので、これも一興、日本の思い出でも嗅ごうかと近寄り、どんな虫が見ようとした。ところが仰天、まさしくホタルではないか。

正確な同定はしていないが、おそらくヘイケボタルか、その近種である。日本の同種は泥水の中にもいて、幼虫は陸に棲む。おそらく庭に流れる排水溝で発生したものらしい。人間は見ようとするものだけしか見えな

い。その後気をつけていると、いるわいるわ、おかげで暑い夏夜の退屈しのぎが増えた。日本ではホタルが消えていったのは、一九六〇年代の前半。全昆虫たちがあつという間に日本から激減した。私が少年時代、夏

の夜は電灯の下にいただけで、さまざまな昆虫たちが家に飛んできた。虫たちの夜の饗宴は消灯まで続き、カナブンなどのコガネムシ類がブーンと音立てて電灯をめぐる、カンカンとぶつかる光景はご記憶の方も多

▼現地活動を紹介するパンフレットをお送ります

*ペシャワール会の活動をご紹介されるときにお使いいただけるものです（払込用紙がついていきます）。ご希望の方は事務局にご連絡下さい。パンフレットはA3変形を四折りしたもので、長形の定形封筒に入るカラー版です。なお、パンフレット、会報等は受け取る意思のある方への配布を原則としております。ポスティング等は御遠慮下さい。

▼寄付をしてくださる皆さまへ

*当会は法人格を持たない「任意団体」です。お送り下さったご寄付については税金控除の対象となりません。予めご了承頂きますようお願い致します。

PMSの動き

- 12月15日～24日 マルワリードⅡ堰、洪水吐きの改修
- 1月17日～3月5日 PMS支援室員がジャララバード事務所に滞在
- 1月28日 ミラーン堰改修工事開始
- 2月4日 マルワリードⅠ取水口、土砂吐きの改修工事完了
- 2月10～12日 ジャララバードで開催されたICC C(気候変動に関する国際会議)にPMS職員参加
- 2月29日 タンギトクチャー用水路補修事業完工
- 3月31日 バラコット事業完工